

中期留学プログラム 第一期生体験記

中期留学プログラム“第1期生”伊藤友香さん(経済3)、鈴木康平くん(経営3)による体験記を紹介しよう。二人は、今年4月からニュージーランドのワイカト大学に留学、12週間の研修を終えて帰国した。語学の習得に加え、留学という異文化生活によって得た貴重な体験が綴られている。

食欲に吸収した3ヶ月

伊藤 由香(経済3)



▲ 先生、クラスメートと一緒に大学のカフェテリアで
(左が伊藤さん)

ワイカト大学へ3カ月間、語学留学をしてきました。この間、何を学んだのかと聞かれてもはっきり言えませんが、毎日が充実し、内容の濃い3カ月間でした。ニュージーランドで頼れるものは自分だけ。責任の大きさを感じました。

最初、学校の授業についていくのに苦労しましたが、中国人のクラスメートの食欲さに驚かされ、私も負けていけない!と、授業中たくさん質問して、徐々に先生やクラスメートとも打ち解けていけるようになりました。授業で自分の意見を初めて言えた時は、本当にうれしかったです。

クラスから一人、3カ月間がんばった学生に賞が贈られる制度があり、なんと私が選ばれたのです! この時は本当にうれしくて、泣いて喜びました。ホームステイ先のホストから“Enjoy yourself!!”と言われた時、自分から積極的に取り組まないと何も始まらないと分かりました。それからは食欲に行動し、立ち止まっている時間がなかった気がします。いろいろなことがありましたが、確実に言えることは、何に対しても動じない度胸がついたことです。英語の勉強はもちろん、多くの人と触れ合い、考える機会が与えられました。プログラムに参加して本当によかったと思っています。この留学は一生忘れられない宝物になりました。

会話の幅が広がる喜び

鈴木 康平(経営3)

ニュージーランドでの生活は新鮮だった。よく仲間とレストランやバーへ行き、自分の語学力の向上を楽しみながら確かめた。

授業中はみんなが真剣に取り組む、特にクラスメートには恵まれたと思う。それぞれが新しい友人に戸惑いながらも、互いの国の文化に関心を持っていた。

私が招かれたホームステイファミリーは、会話の機会を多く持ってくれた。語学の習得だけでなく、文化の違い、彼らのルーツや現在の教育問題なども話してくれ、多岐にわたる話題で会話することが出来た。もちろん子供たちとしゃべる時も多いのだが、共通の話題を見つけ出し、なんとかコミュニケーションをとった。そのうちに向こうから話しかけてくれ

るようになり、とてもうれしかったことを覚えている。

今回の留学を通して、人とのコミュニケーションのとり方を特に学んだのではないかと思う。言葉が通じないと、何とか相手に自分の意思を伝えようとするための、普段は気づかない会話のコツのようなものが見えてきた。語学力が伸びれば会話の幅が広がり、どんどん多くのことが伝えられるようになっていく自分がいる。そのことがまた、この留学に参加したことへの喜びに変わっていった。

【ニュース専修2004年9月号4面】

夢の実現へ一歩近づく

途上国開発で現場体験 9月から米大学院進学

川並 正樹さん(平13経済)

「沙漠を緑に」という熱い思いを抱き、途上国における開発援助という夢に向かい、着実にステップアップしている卒業生がいる。

川並正樹さん(平13経済)は、在学中、途上国における開発研究がテーマの狐崎知己ゼミに所属し、開発経済学理論を学んだ。米ネブラスカ大学リンカーン校留学中は、ニューヨーク国連本部でのUNDP(国連開発計画)主催国際会議に出席するなど、国際的ネットワーク形成とさまざまな素晴らしい経験を得た。

卒業後、1年間総合物流商社で働く。退職後AIESEC(世界最大の学生インターンシップNPO)慶応大学SFC研修生となり、昨年1月から1年間インドネシア第2の都市スラバヤにあるNGOで、都市におけるゴミ収集システム構築・ゴミコンポスト化事業にも取り組む。「生の住民の声を聞く」ため、インドネシア語を3カ月で修得しコミュニティ住民意識調査にも積極的に取り組み、環境問題改善にも大きな貢献を果たす。この活動は、日本AIESECからこの年派遣された研修生80人ほどの中で最優秀という評価を受ける。

途上国における“現場での実体験”を経て、9月から米サウスニューハンプシャー大学でコミュニティ開発経済学を学んでいる。将来的には開発現場におけるプロとして働いていきたいと熱い夢を語ってくれた。

「どこに行っても困らない語学力は、LL自習室で勉強したおかげ」と言う。語学は、あくまでコミュニケーション、そしてさまざまな情報を読み解くための「手段」と考え、中国語、スペイン語などさまざまな言語に取り組んだ。

「専大には、外国人留学生とコミュニケーションを取れる場(国際研修館)や留学システムが整い、語学教材などさまざまなソフトがそろっています。そういったものを上手に楽しく活用することが語学力向上の秘訣。外国語は下手で当然。“相手に伝えようとする思い”がまずは重要です」とも教えてくれた。

【ニュース専修2004年9月号4面】

英語力をつける読書ガイド(5)

English-English Dictionaries

Jeffrey C. Fryckman (文学部助教授)



These days, almost all students have Japanese-English/English-Japanese (J-E/E-J) electronic dictionaries. While these are very convenient and contain many useful features, and must be used in some instances, they can retard or constrict language learning, and cause many students to make mistakes.

When using a J-E dictionary you simply receive a translation from Japanese into English and do not have to process English in your brain, which is essential to language acquisition. Also, this leads to learning one-to-one vocabulary correlations, which is not the best way to incorporate new words into your vocabulary.

Instead, whenever possible, you should use an English-English (E-E) dictionary. If you do, you will have to read and process English to get the meaning of the word you look up. By using an E-E dictionary, your brain will remain in "English mode," and the processing of the information you receive will enhance your acquisition of English. Doing this will also increase your vocabulary, as you will surely find other words in the definition that you are unfamiliar with and must look up too.

Thus, by using E-E dictionaries, you will accomplish many things at once? find the meaning of the word you are looking up, process information in English, thus enhancing your language learning, and learn other new words and meanings.

Secondly, the use of J-E dictionaries leads many students to make mistakes because the direct translations provided are not always appropriate for a given situation, nor are they always up-to-date. For example, many J-E dictionaries list the phrase 付き合う as keep company with, resulting in students making sentences like: He keeps company with a woman from his office (instead of he is seeing/dating/going out with...). Besides sounding very old fashioned, this also sounds as if he is having an affair with her (不倫する).

Jeffrey C. Fryckman
Associate Professor
Department of English
Senshu University

【ニュース専修2004年9月号4面】